

ワケ カタチには理由がある(ワケ)

Shape follows Function & Taste

～カーチスXP-55 アセンダー～



ポールガーバー施設のXP-55の胴体 (撮影筆者)

本機、カーチスXP-55は、太平洋戦争が勃発する直前に、米国陸軍が開催したプッシャー機のコンペR-40Cに応募されたエンテ型の機体です。競合機にはツインブーム型のヴァルティールXP-54、全翼機型のノースロップXP-56がありました。プロペラが前方に付いた牽引式の機体にはない利点を期待してのコンペでしたが、このXP-55をはじめとして、全ての機体は速度、機動力等、いずれも期待を下回るもので、結局いずれの機体も採用されませんでした。このプッシャー式のエンテ型機は、戦争末期に日本海軍も震電としてトライしますが、すでに米国はこの形式に見切りをつけていました。なお、この機体の名称ascenderは「登る人」の意味です。その性能は芳しくなくとも、後退翼を持ったその姿は、牽引式機体に比べてとても斬新で、もしジェットエンジンを装備していれば、大空を駆け上がるとも美しい機体になったと思うと少し残念です。

【模型について】

チェコのMPM製1/72の簡易インジェクションキットです。とても古いキットで、インジェクションパーツは少しダルですが、腹部のフィンや脚カバーなどはエッチングパーツで再現されており、部分的にシャープさを発揮させて見せ場を作ることができます。ただ、プロペラなどは、P-40のものを移植して、アップデートしてあります。(中川裕幸 2023年2月、同年8月改定)